

日本中国語学会第3回関東支部拡大例会

2009年3月28日(土)

明治大学駿河台キャンパス リバティタワー11階(1113教室)

JR お茶の水駅3分、地下鉄新御茶ノ水駅・小川町駅5分、神保町駅8分

<http://www.meiji.ac.jp/campus/suruga.html>

早春の候、会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度第3回関東支部拡大例会を下記の通り開催することになりました。宮田一郎本学会名誉会員の講演および5名の研究発表を予定しております。年度末のお忙しい時期ではありますが、皆様どうぞ奮ってご参加下さい。

【プログラム】

10:30-10:40 開会式 開会の辞 関東支部代表 静岡大学 今井敬子
開催校挨拶 明治大学 守屋宏則

I. 研究発表

- | | | |
|-------------|-------|--|
| 10:40-11:20 | 研究発表① | 白石裕一(中央大学・非) |
| | | 「「時間」「年齢」「金額」を表す文について」 |
| 11:20-12:00 | 研究発表② | 孫 犁 冰(新潟大学・院) |
| | | 「中国語の動相諸形式における否定表現について
—否定辞‘不’と‘没’の文法的使い分けと意味的相違を中心に」 |
| | | [以上 司会：山口直人(大東文化大学)] |
| 12:00-13:00 | 昼食・休憩 | |
| 13:00-13:40 | 研究発表③ | 砂岡和子(早稲田大学) |
| | | 「多人数インタラクションにおける協調的コミュニケーション方略の定量化分析試探」 |
| 13:40-14:20 | 研究発表④ | 高橋弥守彦(大東文化大学) |
| | | 「連語論から見る時間詞の語順について」 |
| | | [以上 司会：松村文芳(神奈川大学)] |
| 14:20-15:00 | 研究発表⑤ | 荒木典子(早稲田大学・非) |
| | | 「明清白話小説における二種類の是非疑問文」 |
| | | [以上 司会：植田均(奈良産業大学)] |

II. 講演

15:15－16:15 講演

宮田一郎（本学会名誉会員）

演題：『海上花列傳』をめぐる

－呉語と近世・現代漢語－

司会：植田均（奈良産業大学）

【発表要旨】

研究発表① 「「時間」「年齢」「金額」を表す文について」

白石裕一(中央大学・非)

「時間」「年齢」「金額」を表す文の特徴を記述、説明する。「時間」を表す文＝“年、月、号、日、星期、礼拝、点、分、钟”をもつ文、「年齢」を表す文＝“岁、多大”をもつ文、「金額」を表す文＝“块、毛、分、元、角、钱、多少”をもつ文とした上で、大量のコーパスからこれらの文を抽出し、その特徴を計量的に明らかにする。名詞述語文は口語でよく用いられ、書面語ではあまり用いられないなどと言われているが、実際はどうなのか？など、「時間」「年齢」「金額」を表す文に関する問題を多面的に考察する。

研究発表② 「中国語の動相諸形式における否定表現について

－否定辞‘不’と‘没’の文法的使い分けと意味的相違を中心に」

孫 犁 冰(新潟大学・院)

今までの否定詞の研究視角は、主に以下の5つである。i) 時間、ii) 誤記、iii) 量、iv) 一緒に使う動詞の「自主性」、v) 一緒に使う動詞の過程構造または「実現」。本発表では、朱継征(2000)が定義した現代中国語の“動相”と“静相”に焦点を当てて、“不”と“没”の文法的使い分けと意味的相違を分析する。主な結論は、肯定文には“着”、“了”、“过”などがつく動相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。一方、“有”などの特例を除く静相の否定には、“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない。

研究発表③ 「多人数インタラクションにおける協調的コミュニケーション

ション方略の定量化分析試探」

砂岡和子(早稲田大学)

著者：砂岡和子（早稲田大学政治経済学術院）

李利津（台湾淡江大学華語中心）

馬燕（慶応大学総合政策学部・非）

俞敬松（北京大学軟件与微電子学院）

アジア4大学による中国語遠隔TV会議の発話分析に基づいて、非習得目標語環境下にある母語話者(NS)と、非母語話者(NNS)が発揮するコミュニケーション方略の特徴を、発話

単位のテキスト理解度とコミュニケーション達成度という指標で定量分析した。その結果、NS はテキスト規範性を犠牲にしても、NNS とのコミュニケーション達成度を優先する協調的談話方略を観察できた。報告では、併せてこの 2 種の指標が、多人数インタラクションにおける交流言語のスキル評価基準として有効かどうか、NS 対 NNS の発話中の語彙と文型・話速・ポーズやフィラー(Filler) の使用比較から検証する。

研究発表④ 「連語論から見る時間詞の語順について」

高橋弥守彦(大東文化大学)

時間詞は一般に時間名詞(時間を表す“以前、以后”などの方位詞も含む)と時間副詞とに大別できる。時間名詞(連語)が、状況語となる場合、主語の前後に用いることができる。時間名詞を主語の前に用いると強調だといわれている。時間副詞が状況語となる場合は、主語の後、述語の前にしか用いることができない。なぜこのような言語現象になるのか、本発表では連語論の観点から以下の 3 点を明らかにする。

- 1) 時間名詞が状況語となる場合は、なぜ主語の前後に用いることができるのか。
- 2) 主語の前に用いられる状況語としての時間名詞はなぜ強調されるのか。
- 3) 状況語となる時間副詞はなぜ述語の前にしか用いることができないのか。

研究発表⑤ 「明清白話小説における二種類の是非疑問文」

荒木典子(早稲田大学・非)

是非疑問文“VP 吗” (“ma” の表記は様々であるがここではまとめてこのように呼ぶ) は、元代から清代の間に急激に増え、現代の普通話では是非疑問文として一般的に用いられている。明清白話小説にはもう一つよく使われる是非疑問文として、疑問副詞を用いた疑問文 (“可 VP” 型疑問文と呼ぶ) があつた。使用頻度や、“可” 自身の疑問を表す強さは作品によって異なる。本発表では、両者が共存するいくつかの作品を調査し、“VP 吗” が現在のような是非疑問文に進化する様子を、“可 VP” 型疑問文との比較から分析する。調査のポイントは、各作品において優勢なのはどちらか、使い分け (中身の VP の構造の違い) はあるのか、などの点である。

日本中国語学会関東支部例会担当

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337

文教大学 文学部中国語中国文学科

山田忠司

tyamada@koshigaya.bunkyo.ac.jp

関東支部例会での発表を希望される方は上記までご連絡下さい。

会場周辺地図

